

22. 当院における血清フェリチンの臨床的評価

竹田 芳弘 木本 真 林 英博
 入沢 実 杉田 勝彦 平木 祥夫
 青野 要 (岡山大・放)

われわれは、1972年6月より、1983年5月までの1年間に、1,049症例の血清フェリチン値を測定し、その臨床的評価について検討した。

1) 血液疾患において、鉄欠乏性貧血で血清フェリチン値は低値を示し、ヘモクロマトーシス、再生不良性貧血、白血病で高値を示した。

2) 悪性腫瘍疾患では、肺・肝・胆・泌尿生殖器系疾患および悪性リンパ腫で高値の傾向があり、肝非転移の消化器系疾患では低値だった。

3) 良性疾患では、肝炎・肝硬変で、平均値が406 ng/ml および 261 ng/ml と高めの値を示した。

4) 血清フェリチン値は、組織破壊、慢性炎症、輸血などの種々な因子によって影響されるため、これらの因子を評価に加えるととも、他の検査結果と合わせて総合的に判断することが、診断を進めるうえで大切であると思われた。

23. B型慢性肝炎の血中HBe抗原、抗体とDNA-polymerase 活性

湯本 泰弘 藤田 保男 徳山 勝之
 神野 健次 荒木 康之 石光鉄三郎
 (国立病院四国がんせ・内)

組織学的に診断を確定したB型慢性肝炎34例(CPH 11例, CAH 10例, CAH 2B 13例), 肝硬変9例の43例を対象として、血清中HBe抗原抗体とDNA-Polymeraseの変動を観察し、自然経過中のHBe抗原のSerocon-

version (SCV) と Ara-A または PLS 投与の SCV の比較をした。

1) Ara-A投与によりeAgが持続陽性を示し、DNA-Pが高値を呈した8例中2例にSCVを来した。一方、eAg陽性と判定保留ないしはeAb陽性の間を変動する2例中1例にSCVを認めた。後者のSCV率が高い傾向にある。2年半の自然経過観察によると、21例のHBe抗原陽性の年間のSCV率は14.7%であった。prednisolone (PLS) 40 mg 2週, 30 mg 2週の投与でeAg値はほとんど変化しないがDNAP値は上昇した。

24. 固相法を用いた新しいCEA測定用キットの基礎的臨床的検討

和田 真理 萬家 千春 永井 郁子
 阿多まり子 松井 達朗 飯尾 篤
 浜本 研 (愛媛大・放)

癌胆児性抗原は、悪性疾患の診断に広く応用されている。今回、われわれは、新しい固相法のキットの基礎的臨床的検討を行った。

Incubation 温度は室温で良く、First incubation は、4時間、Second incubation は、20~24時間が適当であった。希釈試験は、ほぼ良好な結果であった。回収率は平均は102%であった。同時再現性、および、日差再現性については、変動係数は、2.9~6.7%と良好な結果であった。AFP、フェリチン、BMGとCEAとの交叉反応性はみられなかった。良性疾患、および健常人のCEA値は10 ng/ml以下で各種悪性腫瘍患者では高値を示した症例が多くあった。他キットと本キットとの回帰直線は、 $Y=1.008X-15.48$ 、相関係数は、0.977と良好な結果であった。